

組換えDNA実験（第二種使用等拡散防止措置）申請書

学長

殿

平成 年 月 日

申請の種類 (注1)	実験の区分 (注2)	物理的封じ込め (注2)	公的経費 (注3)
<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続 (年 月 号) <input type="checkbox"/> 変更 (年 月 号)	・微生物・培養細胞を宿主とする実験 <input type="checkbox"/> 未同定DNA実験 <input type="checkbox"/> 同定済みDNA実験 <input type="checkbox"/> 大量培養実験 ・動物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種 ・植物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種	<input type="checkbox"/> P1 <input type="checkbox"/> LSC <input type="checkbox"/> P2 <input type="checkbox"/> LS1 <input type="checkbox"/> P3 <input type="checkbox"/> LS2 <input type="checkbox"/> P4 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 文科省 科研費 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 無

実験実施機関	所在地	(〒)		
	名称			
	代表者の職名・氏名			
実験課題名				
実験実施期間(注4)		平成 年 月 から 平成 年 月 まで		
実験責任者	所属部局の所在地	(〒)		
	所属機関・部局・職名			
	氏名	TEL	FAX	E-mail
実験場所	所在地	(〒)		
	名称			
実験従事者	氏名	所属機関・職名	宿主及びその取扱い 経験年数(注5)	組換えDNA実験経験 年数(注6)
安全委員会が本実験計画の 実施を適当と認める理由 (注7)				
		委員長の所属部局・職名・氏名	印	

実 験 課 題 名	
実 験 の 目 的	
実 験 の 概 要	
当該組換えDNA実験を行う必要性（注8） （二種省令に執るべき拡散防止措置が定められていない使用等の場合大臣確認実験となる（注9））	

供与体・ベクター・宿主の組み合わせ（注10）							
DNA 供与体 （注11）	DNA の種類 （注12）	未同定 DNA 実験 に係る単離予定 の DNA（注13）	同定済み DNA 実 験に係る供与 DNA（注14）	ベクター （注15）	宿主 （注16）	封じ込め レベル （注17）	備考
DNA 供与体の特徴及び生物学的リスク（注18）							
単離予定のDNA又は供与DNA並びにその産物の特徴及び性質（注19）							

ベクターの特徴、伝達性、宿主依存性(注 20)	
宿主の特徴、遺伝子交換範囲とその機構(注 21)	
宿主-ベクター系の特徴、生物学的封じ込めの程度及び不活化の方法(注 22)	
組換え動植物作出時における、DNA導入の段階及びその方法(注 23)	
組換え体又は組換え体を接種する動植物の特性及びリスク(注 24)	
大量培養実験に係る組換え微生物、組換え動植物又は組換え体を接種した動植物の封じ込め措置(注 25)	
組換え体の実験終了後の処置	

物理的封じ込めに係る施設・設備	位置(注 26)	
	構造(注 27)	
	設備(注 28)	

計画書記入要領

本様式の各項目に記入する。記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

- 注 1. 該当項目にチェックを入れ、変更の場合は前回大臣確認を受けた年月及び確認番号を記入すること。
- 注 2. 本計画において該当する項目すべてにチェックを入れること。
- 注 3. 公的経費の有無について該当項目にチェックを入れるとともに、ある場合はその種類を記入すること。
- 注 4. 予定している実験実施期間（5年を限度とする）を記入すること。
- 注 5. 宿主として使用する生物種の取扱い経験の有無及び経験年数を記入すること。なお、宿主が微生物、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。
- 注 6. 組換えDNA実験の経験の有無ならびに経験年数を記入すること。
- 注 7. 安全委員会及びその委員長が本計画を安全に実施できると認める理由を記入すること。（実験計画、場所、従事者の妥当性など）
- 注 8. 大量培養実験、組換え体を動植物に接種する実験、脊椎動物の蛋白性毒素産生遺伝子を扱う実験が含まれる場合は、当該実験を行う必要性について簡潔に記入すること。
- 注 9. 一部の場合を除き、執る拡散防止装置について文部科学大臣の確認が必要。その場合所定の申請手続きを行うこと。
- 注 10. DNA供与体、ベクター、宿主の組み合わせ毎に番号、直線、罫線等でまとめ、相互の関連を明らかにすること。
- 注 11. DNA供与体となる生物の種名又は系統名を記入すること。
- 注 12. 供与DNAについて、ゲノムDNA、相補DNA、合成DNAなどの種類を記入すること。
- 注 13. 未同定DNA実験のときに該当。核酸混合物から単離しようとするDNAの名称を記入すること。
- 注 14. 同定済みDNA実験のときに該当。使用する供与DNAの名称（公表されたものであれば文献等）を記入すること。
- 注 15. ベクターの名称を記入すること。
- 注 16. 宿主の種名、系統名又は培養細胞の名称等を記入すること。組換え体を動植物に接種する場合については、接種に係る動植物を□で囲むこと。
- 注 17. 組み合わせ毎に物理的封じ込めレベル及び生物学的封じ込めレベルを記入すること。
- 注 18. DNA供与体について、遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成15年6月18日法律第97号。以下「法」という。）における物理的封じ込めレベル並びに必要に応じてその特徴、自然界における分布、病原性、寄生性、腐生性などの実験従事者に対するリスクについて記入すること。また、蛋白性毒素を産生する場合はLD50及び毒素遺伝子の

構造について記入すること。

- 注 19. 単離・使用するDNA又はその産物等について簡潔な説明を記入すること。
また、同定済みDNAの場合は塩基配列又は同定に至る資料を添付し、その資料番号を記入すること。
- 注 20. ベクターの由来・薬剤耐性・特異形質等の特徴、伝達性、宿主依存性について記入し、必要に応じて実験結果・文献を添付すること。また、ウイルスベクターの場合は法における物理的封じ込めレベルを記入すること。
- 注 21. 微生物を宿主とする場合は、栄養要求性、薬剤耐性、至適生育条件等の特徴を、培養細胞をウイルスの宿主として使用する場合は、宿主内における宿主の核酸や共存するウイルス由来の核酸との遺伝情報の交換の可能性について記入すること。また、宿主に病原性、発がん性及び毒素産生性がある場合は、その説明についても記入すること。
- 注 22. 認定宿主－ベクター系以外の微生物を宿主とする宿主－ベクター系を用いる場合には、宿主の生存能力、伝播性、不活化の方法と予測される不活化の効率を記入すること。また、ウイルスを使用する場合には、そのウイルスの伝播性に対する生物学的封じ込めの程度を記入すること。
- 注 23. 組換え動植物を作出する場合に記入すること。卵、胚、種子、生体など核酸導入時の細胞の分化段階及び導入方法を記入すること。
- 注 24. 組換え又は組換え体の接種により新たに獲得することが予想される形質について記入すること。感染性、病原性、寄生性、腐生性又は毒素産生性等の形質が変化すると予想される場合は、その旨明記すること。
- 注 25. 大量培養実験、動植物を用いる実験の場合に記入すること。培養・飼育・栽培時における漏出・逃亡・飛散防止に係る管理方法、種子・水・排泄物等の不活化等、封じ込め方法について記入すること。
- 注 26. 実験室又は実験区域の位置、実験設備・装置等の配置を図示し、機関内の安全委員会による認可年月日について記入すること。
- 注 27. P 3 以上の施設の場合に記入すること。また、実験設備の構造について図示すること。
- 注 28. P 1 以上の施設の場合に記入すること。また、その設備ならびに装置の名称を記入すること。

申請受理番号		申請承認番号	
--------	--	--------	--